

## — 平成 19 年度事業経過報告 —

## 1 運営経過報告

中越大震災から 3 年、昨年また襲ってきた中越沖地震は生涯忘れることができません。地区民にとって二重の被災となりましたが、これまでに培われた地域の絆や助け合いの精神が大きな支えとなりました。中越地震の教訓が生かされた地域として、多数の報道機関が当地を訪れ、全国に向けて情報発信されました。「人材バンク」や「暖暖」などの活動を含め、防災に地域コミュニティが果たす役割が高く評価され、「平成 19 年度地域づくり総務大臣表彰」の受賞につながりました。

地震により、コミュニティ活動は計画通り実施できなかったものもありますが、『越後北条毛利氏山城と隆盛のあと』と年表『ふるさと北条の足跡』を発刊できたこと、総力を挙げて取り組んだ『復興記念・スノーフェスタ』に地区民が 111 本の復興花火を打ち上げ、数々の感動がありました。また、新たな復興基金の導入による地区の活性化に向けた事業が生まれました。

## (1) 総務大臣表彰受賞

過疎と高齢化が進展する中、地域が地域を支えあう「人材バンク」や「暖暖」、地産地消の地域づくりが評価。

## (2) 『越後北条毛利氏山城と隆盛のあと』と年表『ふるさと北条の足跡』の発刊

地区民のふるさと学習の推進を目的に 1, 000 部発刊。各機関へ寄贈約 100 部、販売約 600 部（うち県外 200 部）。

○ 郷土史講座の開設 上記冊子を教材に「郷土史講座」開設。受講生約 40 名

## (3) コミュニティと全町内会に防災無線網を整備

災害時における連絡手段（部際携帯無線）の確保が課題とされていたが、その整備費用として中越地震復興基金を活用。コミュニティと各町内会を無線で結ぶ災害システムが導入できた。

## (4) 「暖暖」と地域復興支援事業の活用

「暖暖」の設備と機能を充実させ、地域全体へのサービスの公平化や要望に応えるため、中越大震災復興基金を活用。「地域復興デザイン策定支援」と「地域復興デザイン先導支援」の基金。

○ 「デザイン策定」は、コミュニティ計画の見直し点検と、「暖暖」の利活用・新店舗のデザインが重点検討項目

## (5) 「つらら茄子」の商標登録出願！地域の特産品に

在来の「緑茄子」。東京の料亭等へ販路の見通しがついた。地域ブランドの価値を高め、産業競争力の強化を図るため「つらら茄子」と命名し、1 月に商標登録出願申請。

## (6) 避難道路の新設

災害時、コミセン前の道路が狭く、大型緊急車両等の出入りが困難。避難道路の再三の新設要望により完成。

## (7) 施設案内看板の設置

## 2 事業実施報告

4/16 クリーン作戦・不法投棄実態調査……コミ委員、地域環境室

4/25 愛友会……愛友会ボランティア (6/13、7/4、9/27、10/24 計 5 回実施)

6/10 地区民親善体育祭(1,000 人)……ふれあい推進室

6/25 冊子『越後北条毛利氏山城と隆盛のあと』と年表『ふるさと北条の足跡』の発刊……教育振興室

7/16 中越沖地震発生……コミュニティセンター避難所開設

8/26 地区民親睦旅行(上野鈴本演芸場 40 人)……ふれあい推進室

8/31 避難所閉鎖

10/9 市長との懇談会

10/26 北条地区教育懇談会(65 人)

11/17 冬囲い教室(13 人)……地域環境室

12/15 先進地視察・村上と山北方面(26 人)……復興デザイン策定会議

12/22 コミュニティセンター一斉清掃(50 人)……地域環境室

2/10 震災復興・スノーフェスタ in 北条(600 人)、携帯無線お披露目式・花火打ち上げ他……コミ総合事業

2/28 コミ前避難道路完工

3/13 総務大臣表彰式(会場：東京虎ノ門)

○ コミュニティ広報「山なみ」毎月発行(地震により 8 月休刊)……山なみ編集室

○ 花苗育苗・販売、コミ冬囲い用資材置き場および整理棚製作設置……地域環境室

○ 公民館事業……教育振興室 (1)生涯学習事業(郷土史講座)

(2)家庭学級講座(柏崎 3・3・3 運動、親子ふれあい推進事業)

○ 中越復興市民会議主催パソコン教室 3/12、3/25

○ 視察来訪……各地・各団体より多数

○ 報道取材・撮影・放映……多数